

相談支援センター「らん」



障がい者支援、気軽に相談を

ひとりで悩んでいませんか。室蘭市が障がいのある人や家族が抱える生活上の問題解決のために相談支援事業を委託している施設が2カ所あります。4月から1カ所が基幹相談支援センターになり2カ所に拡充し、これまで以上に市内の相談支援事業所や福祉施設、医療機関と連携した気軽に相談できる体制が整いました。どうぞ相談ください。

室蘭市、施設2カ所に事業委託



さまざまな支援相談に応じる基幹相談センターになった「らん」の相談員

【コーディネーター】事業内容は、目まぐるしく変化する福祉サービスをはじめ、健康増進や食生活、余暇活動、就労、権利擁護などのさまざまな相談を受け付けています。市が委託する2施設は、母恋北町の室蘭市障がい者総合相談支援センター「らん」と、中央町2の室蘭市相談支援センター「げんせん」です。

「らん」は相談員4人で、今回、基幹相談支援センターになり、1人増の5人体制になりました。年々増加する障がい者や家族の相談に対応するため、障がい者の種別、年齢を問わず相談を受け付けています。

「げんせん」は相談員5人体制で、日曜・祝日、年末年始を除く午前9時から午後5時までです。障がい者の種別、年齢を問わず相談を受け付けています。

【サービス体制充実】基幹相談支援センターは、市18歳以上の精神障がい、精神疾患の方を対象としています。日曜・年末年始を除き、午前9時から午後5時まで、第4土曜日は午前9時から正午です。

基幹相談支援センターは、相談内容に合わせた適切な支援をスピーディーに行うため、障害者本人とその家族をはじめ、市内の教育・福祉、医療、福祉などの関係者との連携による「自立支援協議会」を定期的に開催しています。

この中で、全体会議のほか、就労や相談支援などのテーマごとに地域の専門家や関係者を招き、解決策を話し合ったり、個別に相談したり、いわばコーディネーター的な役割を担っているほか、福祉施設などの関係者との連携を強化し、支援スキルの向上を目指しています。

【サービス体制充実】両相談センターの相談員数は、それぞれ年間平均約7千件に上っており、年々増加が推移しています。相談内容は、障害者福祉サービス利用が最も多く、次いで社会参加や余暇活動に関する相談と、不安の解消、就労などの相談も増えています。

市によると、「高齢者福祉分野の総合的な相談窓口である『包括支援センター』と比較し、障害者の相談支援事業所の認知度は低いと感じています」とのことです。

しかし、障害者サービスはあらゆる就労施設、居住施設などが多岐にわたるため、相談員は市では「障がいのある人や家族を地域全体で支えたい、その人に合った



グループホームに入っている利用者に生活の近況を定期的に聞くのは相談員の役割

障がい者総合相談支援室「げんせん」

問い合わせは室蘭市障青福祉課
TEL 0143・25局1166番
FAX 0143・25局1166番

相談事例を紹介

■50代女性から、病気の治療のため入院が必要になったが、子どもに障がいがあり一時預かりをお願いできる人がいません。

「事前にショートステイ（短期入所）でできる施設を見学し、施設の職員の雰囲気や建物を確認してもらったため、親子ともに安心してショートステイを利用できました。いざという時のために、あらかじめ市に申請手続きをしておくで安心です」

■40代男性から、精神疾患があり一般就労にはすぐに就けず、家にこもりがちになってしまっている。

「一般就労の可能性を含め、さまざまな選択肢を検討した結果、数カ所の福祉就労支援の見学や体験利用をしてもらい、福祉就労支援施設に通所を開始しました。その後はステップアップして一般就労することができました」

■80歳を超える高齢の親と50代の障がい者の世帯。両親は健康だが衰えていき、50代はひきこもりで将来が不安になります。

「将来の住む所や生活費、仕事について相談。相談員は障害年金の制度紹介と申請支援を行った。またグループホームや就労支援事業所など障がいがある方がどのように生活を送っているかを紹介。見学や体験利用を経て、現在では、障害年金を受給しながら福祉就労支援施設で仕事をしてい

る。今すぐのグループホーム利用ではないが、本人らしく毎日の生活を送っている。ひきこもっていた時代とは見えるほどの活力にあふれている」

■40代男性は、精神科病院から退院することになり、住まい（グループホームやアパート）を見つけてようとするが、身寄りがいなく、保証人になってくれる人がいない。地域の物件情報を知るすべがありません。

「入院中から精神科病院に相談員が訪問し、医師や看護師、精神保健福祉士等と治療内容を確認しながら、本人の希望する生活ができるよう、グループホームや不動産を紹介し見学・体験利用してもらった。退院後も安心して通院治療を受けながら地域生活をしている」

【基幹相談支援センター】障がいのある人や家族が抱えるさまざまな生活上の問題を解決していくためには、必要な時に身近な地域で、気軽に相談できる体制の構築が必要であり、相談内容に応じて適切な支援を迅速につなげていくことが重要です。

室蘭市では2008年度（平成18年度）から相談支援事業所2カ所に相談支援事業を委託して実施し、12年度からは基幹相談支援センターを設置し、市内の相談支援事業所や福祉施設、医療機関と連携して障がいの有無にかかわらず安心して暮らせるまちづくりを進めています。

支援サービスにつなげて、まず、まずは基幹相談支援センターへ相談してほめていき、一人ひとりに寄り添って話を聞きます。